

平成23年度

(第2回)

(集団研修)

地域住民の参加による多様な森林保全

実施要領

平成23年8月

独立行政法人国際協力機構(JICA)

Japan International Cooperation Agency

## 目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	6
11. その他	6

### 参考資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 研修日程

付表－3 カリキュラム(案)

付表－4 年度別受入実績表

## 1. 案件基本情報

### (1) 案件名

和文:(集団研修)地域住民の参加による多様な森林保全

英文:Group Training Program on “Various Forest Conservation with Community Participation”

### (2) 受入期間

平成 23 年 8 月 15 日(月)～ 11 月 19 日(土)

### (3) 技術研修期間

平成 23 年 8 月 22 日(月)～ 11 月 18 日(金)

### (4) 定員、割当国

定 員:14 名 (受入数 14 名)

割当国:フィリピン、中華人民共和国、スリランカ、ケニア、アルメニア、ブルキナファソ、エチオピア、ガーナ(下線は受入国)

### (5) 研修類型:人材育成普及型

### (6) 使用言語:英語

## 2. 案件の背景・目的

森林資源の重要性が認識されて久しく、その森林資源が人類のために有効に利用され、再生されることの必要性を多くの世界の人々が認識することが重要である。

本案件は、わが国の森林の歴史と役割、森林行政、住民の参加などによる森林の保全・造成への取組みの重要性、森林施業技術、森林造成技術について森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す知識・技術習得の研修を行い、各国で現存する森林の保全、人間と森林の共生、育成、森林造成促進の中核となる人材を育成することを目的とする。

### **3. 案件目標**

森林保全などの事業を地域住民参加型で実施するために必要な普及指導方法が、所属組織の関連部署に共有される。

### **4. 単元目標**

- (1) 地域住民の参加による多様な森林保全が効果的に成果を生み出す手法を説明できる。
- (2) 森林資源と森林の活用の把握手法を実践できる。
- (3) 森林の生物多様性保全上の役割を説明できる。
- (4) 森林・林業の習得知識・技術を活かした活動を実践できる。

### **5. 研修成果品**

#### **(1) 本邦研修実施前**

「初期報告書(Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

#### **(2) 本邦研修終了時**

「中間報告書(Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に活動計画(案)を作成し、コース終盤に発表する。

#### **(3) 帰国後の事後活動**

「最終報告書(Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた活動計画(案)を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画(案)をまとめ、帰国後3ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。JICA 帯広は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

## 6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

- (1) 森林保全にかかる普及活動に従事している者。
- (2) 森林保全管理を含めた森林・林業の基礎的知識を有し、森林保全などの関連業務を3年以上の経験を有する者。
- (3) 野外活動が多いため、十分な体力があり女性は妊娠していない者。

(各案件共通資格要件)

- (4) 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- (5) 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- (6) TOEFL iBT 72点(CBT 200点／PBT 533点)以上に相当する英語能力を有すること。
- (7) 心身ともに健康なこと。
- (8) 軍に属していないこと。

## 7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター(JICA 帯広)が計画するコースの実施に関する業務を社団法人海外林業コンサルタント協会(JOFCA)に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。研修期間中、財団法人日本国際協力センター(JICE)所属の研修監理員を配置する。

具体的な業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) JOFCA

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) JICE

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

## 8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標(1頁参照)に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、JOFCA、JICE が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

## 9. 研修付帯プログラム

### (1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター(以下 OBIC: Obihiro International Center)で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

### (2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

### (3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
8月16日(火)	ブリーフィング
17日(水) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の経済」 生活オリエンテーションバスツアー
18日(木) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の教育」「日本の社会と日本人」 講義「日本の政治・行政」「日本の歴史・文化」
19日(金)	日本語講習
20日(土)	日本語講習

## 10. 主な宿泊場所

帯広国際センター(OBIC)

所在地:〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel(0155)35-2001 Fax(0155)35-2213

## 11. その他

### (1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

### (2) 研修員の待遇

#### ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

#### イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

### (3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

## 研修員関連情報

■研修員情報(英語力はリスニング／スピーキング／読解／記述能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① CHOBANYAN, Elmira Avetik ② D-11-02791 ③ 23 ④ 女 ⑤ アルメニア	① 農業省 ハヤンター-SNCO(国家非営利組織) 森林資源調査利用部 主任専門官 ② 2年4ヶ月 ③ エレバン国立大学 (地理学専攻・地理学修士号習得・09年卒) ④ BBBB ⑤ (記入なし)	① 森林法および調査結果に基づく、森林資源の活用計画 ・森林經營計画 ・森林の復旧のための緑地の(有料)貸し出し ② 農業省所管のハヤンター-SNCOは、344.2 haにおよぶ森林の管理を担う。(森林の管理は19の森林局によって行われている。) ・アルメニアの国有林および国有地の、保全、保護、復旧、有効利用を管轄 ・森林開発にも関わっている。 ・FAO(食糧農業機関)、SIDA(スウェーデン国際開発庁)、日本政府振興財団、ノルウェー政府振興財団、そのほか森林体験に関わる多くの組織とも積極的に連携	組織として ・90年代のエネルギー危機の際に多くの森林が伐採されたため、その有効な解決が必要 ・日本の森林經營モデルを参考にした経験 ・大量伐採が森林の生態系と生物多様性に悪影響をもたらしたため、森林復旧活動および能率的森林經營の論理的かつ実践的な経験に着目 個人として ・森林經營の日本モデルについて学び、かつそれを職務に活用したい。 ・「地域住民参加による多様な森林保全」プログラムには大変関心を抱いており、このモデルの活用ができるよう努めたい。 ・住民を参加させるための論理的かつ実践的な知識を活かし、生態系に対しての住民の意識向上することが重要である。
2	① TAGNABOU, Dambadia Lazare ② D-11-2300 ③ 42 ④ 男 ⑤ ブルキナファソ	① 自然保護総監督府 森林監督局 森林計画係官 ② 9ヶ月 ③ 国立水森林学校 (林学専攻・水・森林資源高等調査官・10年修了) ④ BBBB ⑤ (記入なし)	① 掘取される森林区域の森林調査 ・鉱物資源掘取および工場建設による環境への悪影響対策の支援 ・差別化および保護された森林の砂漠化への動向に対応 ・気候変動に対する取り組みの実行 ② 森林資源の持続的な活用のための適切な戦略の構想と実行 ・森林に関する法規の整備 ・私有地と地方の運営プログラム指針の準備と実行 ・森林を要する省庁間プログラムの実行育成の支援 ・地域住民の利益となる森林活用育成に関する、技術的法的援助 ・森林開発のプロデューサーを育てるための組織と支援	組織として ・地方分権に伴う地方自治体によるプロジェクトとプログラムの充実 ・森林資源の持続的な活用のための適切な戦略の構想と実行 ・多様な生物資源の収集と管理についてのブルキナファソでの経験を、他の研修員と共有すること ・生物多様性に関する情報管理に関する日本の経験を理解すること 個人として ・生物多様性情報収集に関する能力向上 ・日本の自然保護政策のような制作への理解 ・ICTを活用した生物多様性に関する知識の普及のための知識の向上 ・生物資源に関して環境や持続可能な開発のための組織の取り組みへと貢献すること ・他の研修員との生物多様性保護に関する経験を分かち合いたい。

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
3	① BAHIRE, Jean Jacques Tegawende ② D-11-02301 ③ 31 ④ 男 ⑤ ブルキナファソ	① 環境および持続可能開発省 水源森林管理局 日程計画および事後調査担当 ② 2年4ヶ月 ③ 国立水森林学校(林学専攻・水・森林資源管理官・06年修了) ④ BBAA ⑤ (記入なし)	① 地域住民および他の関係者と森林資源保護と保全のための活動を計画・意識啓発、組織化、競争入札および学校での環境教育 ・住民の栄養源および森林保全の基本としての森林資源の活用のためのプロジェクトおよびプログラムの構想に参加  ② 環境および持続可能開発省の指針に基づき持続性のある天然資源の活用に寄与する。 生態系の動向に沿った技術や手順を取り入れ、開発活動が森林、住民、生息動物に与える影響も見極める。 ・天然資源の劣化に関する情報や知識の運営やツールの開発 ・国指定森林および動物保護地域の設定支援 ・生態系のための土壤の対応を支援 ・土壤への対応に加えて砂漠化傾向への対処 ・森林生息種の絶滅、焼き畑農業、動物保護区の水資源および土壤の悪化と回復への対処 ・リモートセンシングや地理情報システム、GPSなど最新技術を活用し、生態系への対応に関するアドバイス	組織として ・地域をまとめて様々な森林保全活動を行うための能力を向上 ・日本の経験、および他の研修員から保全のためにどのような政策決定が行われているのかを共有 ・日本の森林経営と保全の戦略を経験 ・日本での経験を取り入れた他の政府機関への研修 ・住民参加など地域においても研修経験を活用  個人として ・森林保全の職務能力の向上 ・森林保全と管理のための様々なツールに関する知識の改善 ・地域住民参加を通じ森林保全活動に積極的に参加 ・森林経営に関するあらゆる活動のよりよい計画 ・他の国々で様々な(特に住民参加型の)森林保全活動の方法や戦略を知り、ブルキナファソでの経験も共有しながら、最終的な結論を出す。 ・日本および他の参加国との提携関係を育てる。 ・他の人々の生活様式についての視野を広げる。

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
4	① OUOBA, Daogo ② D-11-02303 ③ 33 ④ 男 ⑤ ブルキナファソ	① 自然保護総局 統計・生態監視事務所 土壌生態監視官 ② 2年1ヶ月 ③ ポボ・ディウラッソ大学(森林管理、動物 管理、森林権、コンピューター科学、普 及、変化と保全、英語コース、植物病、 遺伝子学および植物改善専攻・水森林 技術者修了・06年卒)  ④ BBBB ⑤ ニアメイ大学(国内エネルギーのデータ ベース研修・'11年)	① ・森林資源調査および計画 ・保全の政策および戦略の作成 ・国有森林遺産の管理 ・森林保全の技術普及プログラムの構想 ・林產品促進技術プログラムの普及 ・地域社会組織向けの森林資源保全に関する意 識向上キャンペーン ・森林資源保全に関する規定の整備 ・生態系データの収集、処理、分析の手配  ② ・森林と野生生物に関する国策の実践的な適用 の準備、監視、手配業務 ・国有森林財産の設立と指定 ・国有森林財産の保全、計画、管理の政策と戦 略の作成 ・森林資源の持続的な管理の規範作り ・他の組織との協力による自然生態系の保護 ・ブルキナファソが批准した森林資源の国際会議 での決議事項の実務的な適用とモニタリング ・森林資産管理への地域の一体化のための育 成、モニタリングおよび戦略支援 ・生態系データの収集、処理、分析の手配 ・森林経営技術の普及 ・技術プログラムおよび林産促進の普及ツールの 制作 ・持続可能な森林経営のための指標作り ・地方自治による天然資源管理のための専門知 識の伝達の支援	組織として 研修参加後は ・ブルキナファソの森林保全を様々な形で改善 ・森林経営システムにより積極的に参画 ・近隣諸国の技術者との教育セッションを催行 ・地域組織の啓発と意識向上のためのキャンペーンを主導 ・この研修で習得する様々なモデルや技術を活用して、森林保全活 動に積極的に参加。  個人として ・様々な森林保全職務能力の向上 ・日本および他の参加国で使われている森林保全技術を知ること ・森林保全の様々なツールについての知識を改善 ・日本で習得した森林保全技術の自国での活用に積極的に参加 (特に関心があるのは) ・地域住民参加による森林保全の形を知ること ・森林保全に関して自分の経験を他の研修員と分かち合うこと ・日本において最高の森林経営技術を知ること ・森林資源保全に関する住民の認識に耳を傾けること
5	① WU, Lilei (武 立磊) ② D-11-03194 ③ 42 ④ 女 ⑤ 中華人民共和国	① 国家林業局 野生生物保護・自然保護 区管理部 自然保護区管理・生物多 様性保全課 課長補佐 ② 8年 ③ 中国农业大学(人口資源環境経済学 ④ CCBC ⑤ 韓国国際協力団(KOICA)(森林管理・ 05) 国連食糧農業機関(FAO)/米ネイ チャーコンサーバンシー(TNC)(地域 基盤の火災管理・インドネシア・07)	① ・基本計画 ・自然保護区のエコツーリズム計画 ・データベース管理  ② ・自然保護区の森林や野生生物および森林公園 の管理 ・生物多様性の保全と生物多様性会議の開催 ・野生生物の救助や繁殖、生息域の復旧と造成 の指導 ・野生生物の狩猟または収集、飼育、繁殖または 栽培、管理、利用の監督、それに伴うロゴ、野生 生物の病気と感染病源の管理 ・国で優先的に保護の必要な野生生物の研究と リスト調整のための提案 ・野生生物の輸出入の監視と管理 ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取 引に関する条約(ワシントン条約)の施行に関す る関連業務	組織として ・日本での地域住民参加で行う活動を通じての森林管理および生物 多様性保全、天災の予防や河川流域の保護のためのその役割や機能の(中国での)適用可能性について理解すること ・上記(参加型)活動の方法 ・中国での上記のための能力や機能の改善 ・アクションプランを構築して実行し、それから経験や学びを得る。 ・研修の成果を反映して中国で上記のモデルを構築する。  個人として ・適用可能性の理解 ・プロジェクト実行、運用能力 ・実務方法や技術を習得 (特に関心があるのは) ・この研修経験を通じて運営能力を向上 ・上記の適用可能性に加えて、地球温暖化や水不足に対しての(森 林管理や生物多様性保全の果たす)役割 ・アクションプランの作成、実行方法

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
6	① BEYENE, Dereje Jenbere ② D-11-02684 ③ 38 ④ 男 ⑤ エチオピア	① オロミア森林野生生物公社 森林開発 利用部 森林普及係官 ② 1年3ヶ月 ③ ウォンド・ゲネット林業天然資源大学(林 業専攻・理学修士・09年卒) ④ ABAB ⑤ なし	① ・地域レベルでのPFM(参加型森林経営)の採用 ・支局および地区ごとの専門家に対するPFMの 研修 ・PFMワーキンググループのミーティングの開催 ・普及業務の実施に当たり各支局や地区への支 援 ② エチオピア・オロミア州の森林資源の持続的な保 護、開発、活用を実現すること	組織として ・地域住民を動かして、森林経営と活用活動に関する意思決定およ び計画、実行に参加させる能力を習得 ・研修で習得した知識や情報を同僚と共に共有 ・戦略的、具体的なアクションプランを作成しながら、情報や知識を行 動へと転換すること ・この業務に関連する同僚に対しての短期研修  個人として ・日本および東南アジアの持続的な森林経営と管理を明快に理解 し、自国で適用できる講義を組み立てること ・どのように地域住民動員を行うのかを知ること ・天然資源管理という分野でのさまざまな立場の当事者(開発、保護、 持続可能な活用)がどのように協働するのかを知ること。 (特に関心があるのは) 単元1に組まれている「地域住民の参加による様々な森林保全が効 果的に成果を生み出す手法」。意思決定に住民が参加することが、 持続的森林経営にとって大変重要だと考えている。

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
7	① LEMMA, Bisrat Getachew ② D-11-02735 ③ 25 ④ 男 ⑤ エチオピア	① 農業省 天然資源管理局 森林専門官 補佐 ② 2年8ヶ月 ③ ウォンド・ゲネット林業大学(林業専攻・ 理学士・06年卒) ④ BBAA ⑤ なし	① ・森林開発業務 ・地方の森林開発に対する技術的支援 ・住民参加型流域開発  ② ・地域住民参加型流域天然資源管理と開発 ・天然資源開発に関するデータ、情報分析 ・参加型森林経営実務の導入と適用 ・様々なレベルの専門家を対象とした国内天然 資源開発に関する能力育成 ・天然資源に関する整理されたデータベースの 開発 ・天災および人災からの森林の保護	組織として 天然資源管理局 の重要な業務のひとつは全国的な住民参加型の 森林経営の採用である。実践のためには様々な階層の関係者の参 加が必要であるが、自国では未だ経験不足であり、満足の行くもので はない。日本での経験が成功への鍵である。具体的には、 ・森林および林業に関するシステムの強化と能率化 ・参加型森林経営への支援確保 ・全国一律の森林保全推進ガイドラインの作成 ・住民参加型の森林保全戦略の構築 ・様々なレベルでの森林経営能力の育成  個人として ・健全な森林保全のための計画的な戦略 ・森林経営のための積極的な参加の育成 ・健全で積極的な参加型経営のための枠組み作り ・森林の生物多様性の経済的価値の強化 (特に関心があるのは) ・日本の森林および林業システム ・参加型手法 ・日本の森林の生態系および生物多様性の保全の状態 ・日本の森林および林業の広報システムや手法 ・PCMとアクションプランの作成方法
8	① ASARE, Eric ② D-11-02342 ③ 30 ④ 男 ⑤ ガーナ	① 森林委員会 森林業務局 地区支局長 補佐 ② 4年2ヶ月 ③ (ガーナ)科学技術大学(林業専攻・天 然資源管理理学士・05年卒) ④ AAAA ⑤ 中国竹研究センター(途上国向け竹の 技術研修・'10年)	① ・現地作業のモニタリングと監督 ・森林周辺住民の意識啓発と教育 ・収入確保のためにプロジェクト実行地域の住民 を基盤としたグループの編成  ② ガーナの森林資源の持続的開発と管理	組織として ・最前線のスタッフの森林経営における住民参加を実行する能力を 強化し、移行中の地域でのプロジェクトから得られる利益の流れを運 営できるようにする。 ・習得した知識の活用を年間目標で確認できる関連活動も含める。 ・習得した知識を、部下や他のスタッフにも伝達できる研修の実行支 援 ・スタッフ評定システムを通じての研修参加者の実績のモニタリング 個人として ・持続可能な住民参加型森林経営の知識を習得し、まずプロジェクト 対象エリアでの利益を得て、他の地域でも実行したい。 (特に関心があるのは) ・対立解決と管理 ・ファンリテーションとコミュニケーションのスキル ・PRA(参加型農村調査手法)ツール ・モニタリングと評定

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
9	① OTTOPA, Francis ② D-11-02343 ③ 46 ④ 男 ⑤ ガーナ	① 森林委員会 森林業務局 森林監督官 ② 4年 ③ クワメエンクルマ科学技術大学(土地開墾専攻・森林資源理学士・10年卒) ④ AAAA ⑤ (記入なし)	① 1)森林火災およびその他の危害を防ぎ、劣化した森林を再生するための地域住民への教育 2)ポストハーベスト(農薬)検査と現場作業のモニタリング 3)材木が持続可能な森林から切り出されてきたかどうかを確認するために、TIF(木材情報書類)、LIF(丸太情報書類)およびLMCC(丸太計測運搬証明書)の検査、および全体的な伐採登録の維持管理。  ② ガーナの森林資源の持続的開発と管理	組織として ・最前線のスタッフの森林経営における住民参加を実行する能力を強化し、移行中の地域でのプロジェクトから得られる利益の流れを運営できるようにする。 ・習得した知識の活用を年間目標で確認できる関連活動も含める。 ・習得した知識を、部下や他のスタッフにも伝達できる研修の実行支援 ・スタッフ評定システムを通じての研修参加者の実績のモニタリング  個人として ・他国の森林経営への地域住民参加の手法を学び、(自国)の現場スタッフと共有することで、森林経営戦略と一緒に改善していくことを期待する。 (特に関心があるのは) 1)プロジェクト管理の基礎的な理論を習得し、実行されるプロジェクトの持続性を確保すること 2)プロジェクト実行に伴う対立解決の基礎的な理論を習得すること
10	① SOI, Andrew Cheruiyot ② D-11-02686 ③ 46 ④ 男 ⑤ ケニア	① ケニア森林公社 森林普及局 局長補佐 ② 1年3ヶ月 ③ モイ大学(林学専攻・林学理学士・09年卒) ④ BBAB ⑤ (タンザニア)オルモントリー研修機関(林学・修了証書取得・93年)	① 担当地区の業務計画を作成して実行 ・技術および政策関連問題の調整と指導 ・局長と現場関係者との連絡 ・局と地域住民への業務および技術的情報の適時の伝達 ・定期報告書の提出  ② 環境と社会経済の発展のために、森林および関連資源の持続可能な管理と活用を通して(森林)保全を強化すること	組織として ・国内の森林面積の増加 ・(自治体による)環境管理を改善 ・社会経済発展のために、脆弱な森林の資源の保全と持続可能な利用を強化 ・林産品および森林関連業務から収益を上げる機会を増加 ・森林再生および造林プログラムの増強 ・森林および資材供給を増やすための林業の発展 ・(森林についての)一般向け広報資料の作成 ・育成のための植林地の促進 ・地域アクションプランの作成と実行の支援 ・樹木資源調査の遂行 ・農家に対する育種および管理の能力開発  個人として ・森林普及管理および保全の技術と戦略能力を向上 ・私有林の登録を推進 ・植林調査の実行 ・国全体、自治体別、地域別の関係者会議 (特に関心があるのは) ・今研修の単元のほとんどは現在の私の管轄内での問題解決のために役に立ち、他の森林監督官や地域住民および他の関係者の育成のための知識と技術を習得できる。環境と社会経済発展のために森林を育成したい。

No	①氏名(姓, 名) ②研修員番号 ③年齢 ④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
11	① KURIA, Lawrence Gitundu ② D-11-02688 ③ 46 ④ 男 ⑤ ケニア	① ケニア森林公社 天然林管理保全局 「ケニア青年能力開発林業プログラム」 プロジェクトマネジャー ② 1年4ヶ月 ③ モイ大学(林産品とその利用専攻・林物理学士・89年卒) ④ ABAB ⑤ ・名古屋/東京(林産材料活用技術・97年) ・(中国)杭州(森林管理と活用技術・06年) ・(エチオピア)アジスアベバ(森林管理:同意と適用・07年)	① ・地域森林協会青年グループを通じて劣化した森林の再生に携わる全国的な林業プログラムのプロジェクトマネジャー ・森林プログラム指導者と相談しながら、実行のための作業計画、定期的モニタリングと報告書を作成 ・技術、政策関連問題については局長と連絡し適時の情報伝達を行う。 ② 環境の安定と社会経済発展のために森林とその資源の持続的活用を通じて、保全を強化すること	組織として ・森林面積の増加のために必要な技術を習得すること ・環境管理を改善 ・森林周辺地域団体のために、林産品および林業の収益機会の増加 ・局は、地域のアクションプラン作成と実行に研修員を通じて支援する。研修成果は、地域森林プログラムに直接携わる公社の現場係官に広められる。 ・農家に対する育種および管理の能力開発も行う。 個人として ・日本とケニアで対照的になっている林業および森林の問題を比較して、現在自国で実行している林業プログラムの障害となっている問題解決のためのアクションプランを作成すること (特に関心があるのは) ・日本国内で採用されている地域森林保全手法 ・日本の林業および森林に関する問題と、その解決のために実践されているシステム

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
12	① LACHICA, Michelle Alonsagay ② D-11-02392 ③ 47 ④ 男 ⑤ フィリピン	① 環境天然資源省 森林管理局(DENR-FMB) 地域住民森林経営部(CBFMB) 上級森林経営専門家 ② 14年6ヶ月 ③ グレゴリオ アラネタ大学(天然資源管理専攻・理学修士・89年卒) ④ BBBB ⑤ なし	① 1)ルソン島高地開拓(特に混農林業、植林、植林地の開設)プロジェクト提案の審査 2)地域住民型森林経営および林業関連の政策、ガイドラインおよびプログラムの審査、構成、作成を支援 3)地域住民型森林経営活動および林業関連の審査と技術アドバイス 4)林業プログラムのための意思決定を行うために欠かせないGIS(土地情報システム)を担当 5)ワークショップ、ミーティング、研修、書類作成、合意事項の報告書作成などの手配 6)(林業)支援業務のための他の部署や組織との連携を含む、上司からの指定業務  ② 優秀なリーダーシップと森林資源の持続可能な管理を支援を提供することができる専門家が集まる政府直轄森林業務機関	組織として ・地域住民森林経営部(CBFMB)は、農作地帯における住民参加型の森林保全と開発活動の促進を目的としており、PO(住民組織)およびそのほかの関係者に、積極的な森林の管理、保全と保護、同時に政策策定やプロジェクト計画への参加を呼びかけている。この研修への参加は、参加型森林保全手法の能力および戦略の向上に役に立つであろう。 ・この研修で得られた経験と知識は、住民参加型森林経営プログラムおよびそのほかの関連林業開発、保護、保全プログラムの実行に反映、適用される。  個人として ・自国の住民参加型森林経営プログラムに取り入れ、適用できる知識、技術や経験を得ること ・研修で習得するプロセスを適用する能力を向上すること (特に関心があるのは) ・日本での森林および林業に関する問題解決の状況 ・日本の森林および林業関連システム、森林保全 ・住民参加型手法の戦略 ・森林および林業関連の普及システムと方法 ・PCMとアクションプランの構築 ・実践的な知識と技術 ・課題をより明快に理解するために役立つ実習 ・以上を通じて帰国後の自信を身につける。
13	① CURIAS, Larry Portugaliza ② D-11-02759 ③ 39 ④ 男 ⑤ フィリピン	① 環境天然資源省 (DENR) 第十二支所 森林管理局 第二森林管理専門官 ② 7年1ヶ月 ③ フィリピン開発アカデミー(生物多様性保全管理専攻・公共管理修士・08年卒) ④ BBBB ⑤ なし	① •PENRO(州環境天然資源管理局)およびCENRO(地域環境天然資源管理局)と緊密な連携によるプロジェクトおよびプログラムの構築 •様々な計画やプログラム実行の地域レベルでの検証と評価 •プロジェクト実行に関しての地域での助言  ② (DENR) 将来の世代のために、環境と天然資源の保護、保全、管理に関係者を参加させての持続可能な開発を推進する。	組織として ・様々な環境天然資源保全および開発計画を進めるにあたり、地域(特に農村部と森林住民)が受け入れやすくなるようにする。 ・地域での現場スタッフが森林普及業務に取り組みやすくなる。  個人として ・日本での森林保全の推進のために取り組んできた動向、課程、実績、課題などを理解し、フィリピンで特にPO(住民組織)との効果的な協力関係による経営手法に反映できること。 ・先進工業国であるにもかかわらず、森林の役割をどのように国民に教育しているか。(フィリピンでは住民が森林保全に消極的であり、持続可能な方法よりも貧困の短期的解決を優先している。) ・自国での職務に取り入れられる日本の文化、そして日本の成功例や地域参加型林業経験について聞きたい。 (特に関心があるのは) ・天然林の保全と植林地の創設により、生物多様性の復旧と農村部の生活向上の2つの目的を果たすこと ・実績のある森林管理官や地域住民のパートナー、およびそのほかの関係者の実績に報いるシステムと、森林や森林地帯での持続的な管理実践の奨励手段

No	①氏名(姓、名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
14	① ALUWIHARE, Wilasini Sathima ② D-11-03201 ③ 38 ④ 女 ⑤ スリランカ	① 森林局 森林調査管理部 森林保護官 助手 ② 4年8ヶ月 ③ パラデニヤ大学 農業大学院(土壤学専攻・理学修士・02年卒) ④ BBBB ⑤ (中国)北京林業大学(森林管理・09年)	① 1) 国の植林計画のための地方森林再生運営計画の準備と改定 2) 民間企業による森林再生プロジェクトの監督とモニタリング 3) 森林周辺住民とともに対立の解決活動を実行 4) 農村部の樹脂最終活動の監督とモニタリング 5) 国内の造林活動や森林管理プログラムの監督 6) 森林調査データベースの管理 7) 年間業務プログラム、予算編成、現場作業進捗報告書の作成 8) スリランカ林業研究所の客員講師  ② スリランカの繁栄を目的とした国内の森林資源の保全と開発	組織として 住民参加型の森林経営は、森林局の方針でもあり、この研修において研修員は地域林業に関しての必要な知識が身に付けられ、スリランカにおいても地域林業プログラムを実行することに慣れるであろう。森林局の現地担当者にとって参加型の研修と地域の森林管理は、地域林業プログラムを計画、実行するに当たり、大変重要である。今研修で得られる知識と経験はとても役に立つ。  個人として 地域住民参加による持続的な森林経営は、森林局の方向性と一致しており、私の職務もここに直接関わっている。この研修への参加により、社会経済と環境の両面において知識と技術が広がるであろう。全ての項目は職務に深く関係している。 (特に関心があるのは) ・経営のための「処方箋」と計画の作成 ・日本での普及システムと手法、PCM、アクションプランの構築と実行 (以上はスリランカでの参加型活動を計画、検証、評価にするために役に立つ)

付表-2

## 研修日程

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
8/15	月			来日		〃
8/16	火			ブリーフィング	JICA・北方圏センター	〃
8/17	水			ブリーフィング/オリエンテーション	〃	〃
8/18	木			ブリーフィング/オリエンテーション/日本語研修	〃	〃
8/19	金			日本語研修	〃	〃
8/20	土			日本語研修	〃	〃
8/21	日			休日		〃
8/22	月	(OBIC←→市役所)		市長表敬(9:15～9:45) コースオリエンテーション(10:30～11:30) 研修員とのディスカッション(13:30～16:00)	帯広市市民活動部親善交流課長 宮村 瞳夫 JICA・JOFCア 参与 長繩肇	〃
8/23	火	インセプションレポート発表会		インセプションレポート発表会 (15分/人×14人)(9:30～12:00、13:30～16:00) ティーパーティー(16:00～)		〃
8/24	水	日本の森林・林業の概要		①日本の森林・林業の現状と課題及び展望 ②日本の林政を担う組織と機能 (10:00～12:00、13:00～16:00)	JOFCア 参与 長繩肇	〃
8/25	木	日本の森林・林業の概要		①森林関係の法律と森林計画制度②日本の造林技術 (10:00～12:00、13:00～16:00)	JOFCア 参与 長繩肇	〃
8/26	金	a.m.日本の森林・林業の概要 p.m.インテリム、ファイナルレポートについて(JICA)		a.m.森林関係の法律と森林計画制度②日本の造林技術 (10:00～12:00) p.m.(13:30～15:30)	JOFCア 参与 長繩肇 JICA担当者	〃
8/27	土			休日		〃
8/28	日			休日		〃
8/29	月	講義 視察	(OBIC←→現地) 地方行政と森林	帯広市の森林施業・緑化事業及び緑の環境モデル都市の概要 (10:00～12:00:講義/13:30～15:30:視察)	帯広市都市建設部 みどりの課みどりと花の係 渡部 愛	
8/30	火	実習 視察	(OBIC←→現地) 地方行政と森林	帯広の森・はぐくむ(帯広の森の育成管理、利活用の拠点施設) 間伐、木工実習(10:30～12:00、13:30～15:30)	帯広市都市建設部 みどりの課みどりと花の係 渡部 愛	
8/31	水	講義 討論	森林保全と人間活動の共生	人々と森林―日本の土地所有制度と森林 (10:00～12:00、13:00～16:00)	技術士 岡部 廣二	
9/1	木	視察	(帯広←→新得) 森林資源の持続的利用	椎茸ほだ木施業(9:30～10:30) 椎茸出荷センター他(11:00～12:00、13:00～14:30)	新得町農林課林務係長福原 裕之 新得町しげたけ生産組合副組合長 関根 悅朗	帯広
9/2	金		振り返り①	自国/担当地域の森林管理にかかる現状と課題をテーマに 研修員間で情報交換、議論(10:00～12:00、13:30～15:30)	JOFCア 参与 長繩肇	〃
9/3	土			休日		〃
9/4	日			休日		〃
9/5	月	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～12:00、13:00～16:00)分析	JOFCア 参与 長繩肇 /主任研究員山下 昌一 研究員武井 沙織	〃
9/6	火	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～12:00、13:00～16:00)分析	JOFCア 参与 長繩肇 /主任研究員山下 昌一 研究員武井 沙織	〃
9/7	水	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～12:00、13:00～16:00)分析	JOFCア 参与 長繩肇 /主任研究員山下 昌一 研究員武井 沙織	〃
9/8	木	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～12:00、13:00～16:00)分析	JOFCア 参与 長繩肇 /主任研究員山下 昌一 研究員武井 沙織	〃
9/9	金	講義 実習	参加型手法 討論	PCM手法(10:00～12:00、13:00～16:00)実践	JOFCア 参与 長繩肇 /主任研究員山下 昌一 研究員武井 沙織	〃
9/10	土			休日		〃
9/11	日		(帯広→えりも)	休日		〃
9/12	月		(えりも→帯広) 森林保全と人間活動の共生	えりも緑化事業(9:30～11:30) 地域住民との対話集会(12:30～15:00)	日高南部森林管理署 署長上平清治 治山課長 田端桂 えりも治山事業所主任 志田 有里絵 JOFCア 参与 長繩肇	えりも
9/13	火	実習	(帯広←→糠平) 森林資源の把握	森林情報収集(10:30～12:00、13:00～15:00)	日本森林林業振興会札幌支部 帯広支所 松原 康時	帯広
9/14	水	講義 視察	(帯広→本別→足寄→阿寒) 日本の森林・林業の概要	国有林の森林經營(10:30～12:00、13:00～15:00)	十勝東部森林管理署 署長 山本 昭彦 治山課長 大門 一哉 業務課長 長崎 秀光	阿寒
9/15	木	講義 視察	(阿寒→釧路) 森林保全と人間活動の共生	民有林における森林保全活動(10:30～15:00)	前田一步園財団 総務部長 西田 力博	釧路
9/16	金	講義 視察	(釧路←→標茶) 森林造成技術	パイロットフォレスト・炭焼き (10:30～12:00、13:00～15:30)	根釧西部森林管理署 署長 中野 亨 流域管理調整官 永宮 秀成 自然再生指導官 舟橋 聰	〃
9/17	土			休日		〃
9/18	日			休日		〃
9/19	月			休日		〃
9/20	火	講義 視察	森林の生物多様性保全の状況 湿地生態系保全	湿地における野生生物保護(10:00～12:00) 釧路湿原視察(13:00～15:00)	(株)猛禽類医学研究所 代表・獣医師 斎藤 延輔 釧路湿原展望台	〃
9/21	水	講義 視察	(釧路→浦幌→豊頃→帯広) 日本の森林・林業の概要	①道有林の森林施業 ②大断面集成材を使用した厅舎の紹介(13:00～15:30)	北海道十勝総合振興局森林室 森林整備課長 田村 修一	帯広
9/22	木	講義 討論	日本の森林・林業の普及	日本の森林・林業技術普及の概要及び普及方法及び 諸外国等の森林・林業ケーススタディーの事例 (10:00～12:00、13:00～16:00)	JOFCア 参与 長繩肇	〃
9/23	金	討論	インテリムレポート作成指導 振り返り②	インテリムレポート作成検討・準備(10:00～12:00、13:30～15:00) 日本の森林管理にかかる取り組みについて(15:00～17:00)	JOFCア 参与 長繩肇	〃

## 研修日程

付表-2

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
9/24	土			休日		帯広
9/25	日		(帯広→富良野)	休日		富良野
9/26	月		(富良野→札幌) 森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施業法 (10:00～12:00,13:00～15:00)	東京大学演習林 林長 芝野 博文	札幌
9/27	火			北海道森林管理局表敬訪問(9:20～9:30) 講義:北海道の国有林概要(9:30～11:00) 北海道庁表敬訪問 (11:30～12:00)	北海道森林管理局企画調整部 企画課長 竹中 篤史 北海道水産林務部総務課 主査(国際交流) 渡辺 勉	"
9/28	水		(札幌→定山渓) 森林資源の持続的利用	高密路網を基盤とした天然林施業(定山渓) (10:00～12:00,13:00～15:30)	北海道森林管理局企画調整部 総務企画係長 土屋 修久 企画課長 竹中 篤史	"
9/29	木		(札幌←→美唄) 午前:森林資源の持続的利用 午後:森林資源の把握	持続可能な天然林施業のための更新戦略(10:30～12:00) 森林資源把握方法 (森林GISの概要-GISに必要なデータの取り方を含めて) (13:00～15:00)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構研究本 林業試験場 森林資源部経営グループ主査 大野泰之、 研究主任 滝谷美香 森林環境部環境グループ 主査 菅野 正人	"
9/30	金	講義	森林の生物多様性保全の種々の状況	森林と海洋(10:00～12:00,13:00～16:00) (講義場所:JICA札幌)	四日市大学環境情報学部 教授 松永 勝彦	"
10/1	土			休日		"
10/2	日			休日		"
10/3	月	講義	午前:地方行政と森林 午後:森林の生物多様性保全の種々の状況	北海道の森林行政 (10:00～12:00) 北海道の自然環境科学研究 (13:30～15:30) (講義場所:JICA札幌)	北海道府水産林務部林務企画グループ 主査 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター 自然環境部 研究主幹 宇野裕之	"
10/4	火	講義 視察	(札幌←→江別) 森林の生態・生物多様性	育種と森林の遺伝資源 (10:30～12:00,13:00～15:30)	独立行政法人森林総合研究所林木育種センター 北海道育種場 育種課長 山田 浩雄	"
10/5	水	講義 視察	森林資源の持続的利用	森林施業の基礎知識 (10:30～12:00,13:00～15:30) (場所:森林総合研究所/午前:講義・午後:視察)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 地域研究監 佐々木尚三	"
10/6	木	講義	午前:森林の生態・生物多様性	森林植生(10:30～12:00) 森林動物(13:30～15:30) (講義場所:JICA札幌)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 植物土壤系研究グループ長 相澤州平 森林生物多様性チーム長 平川浩文	"
10/7	金	表敬 講義 視察	(札幌←→旭川) 森林資源の持続的利用	北海道林産試験場 場長表敬(11:00～11:10) 北海道における林産物の利用「林産試験場の概要と木材利用の有効性」 (11:10～12:00) 「北海道における森林資源と木材利用」(13:00～13:40) 「ヤナギの植栽によるエタノール生産」(13:40～14:20) 施設案内 (14:20～15:30)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場場長 中島 俊明 企業支援部普及調整G主査 山崎亨史 利用部マテリアルG研究主幹 石河周平 利用部バイオマスG研究主任 折橋健 企業支援部普及調整G研究職員 遠藤展	"
10/8	土	講義 視察	森林の生物多様性保全の種々の状況	市民と自然とのふれあい(自然ふれあい交流館) (13:30～15:30)	自然ふれあい交流館副館長 松井則影 普及啓発員 扇谷真知子	"
10/9	日			休日		"
10/10	月	移動	(札幌→帯広)	休日		帯広
10/11	火		振り返り③	これまでの研修振り返り (10:00～12:00,13:30～16:00)	JOFCア 参与 長綱肇	"
10/12	水	講義/視察 自習	森林造成技術 インテリムドraft作成指導	苗圃・苗木つくり(10:00～12:00) インテリムレポートドraft作成指導(14:30～16:30)	(有)大坂林業 代表取締役 大坂和雄 JOFCア 参与 長綱肇	"
10/13	木		インテリムレポート作成指導	インテリムレポート作成指導(10:00～12:00,13:30～15:30)	JOFCア 参与 長綱肇	"
10/14	金	視察	学校訪問	国際交流の推進		"
10/15	土			休日		"
10/16	日			休日		"
10/17	月	講義	海外における日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力 (10:00～16:00)	JICA地球環境部第一グループ 神田 強	"
10/18	火	講義 視察	森林資源の持続的利用	落葉広葉樹林施業研究(11:00～12:00,13:00～15:00)	九州大学北海道演習林 林長 久米 篤	"
10/19	水	講義 視察	森林資源の持続的利用	木質バイオマスエネルギー利用(ペレットの製造及び利用) (11:00～15:00)	足寄町長 阿久津 勝彦 経済課 参事 岩原 栄	"
10/20	木	講義 討論	森林保全と人間活動の共生	住民参加による森林管理 (10:00～12:00,13:00～16:00)	北海道大学大学院農学部 教授 柿澤 宏昭	"
10/21	金	講義 視察	(帯広←→芽室) 森林保全と人間活動の共生	森林組合の活動 (10:00～12:00,13:00～15:00)	十勝広域森林組合参事 村上 悅朗	"
10/22	土			休日		"
10/23	日			休日		"
10/24	月	講義 実習	森林資源の持続的利用 森林造成技術	間伐材利用促進(9:30～11:30) 森林修復のための技術(カミネッコンによる森林造成) (13:30～15:00)	株式会社サトウ代表取締役社長秋元紀幸 帯広NPOサポートセンター理事長 千葉養子	"

付表-2

## 研修日程

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
10/25	火	移動	(帯広→東京)			東京
10/26	水	表敬 講義	午前: 日本の森林・林業の概要 午後: 日本の森林・林業に関する制度	林野庁表敬訪問(P) (10:00~10:10) 講義: 国有林の森林経営 (10:30~12:00) 日本の保安林制度 (13:30~15:30) (農林水産省4F会議室)	林野庁計画課海外林業協力室長 上田浩史 経営企画課 調査官 寺川 仁 治山課課長補佐(企画班担当)金谷 範導	"
10/27	木	講義	森林の生物多様性保全の種々の状況 日本の森林・林業に関する制度	地球温暖化防止での森林の役割 (10:30~12:00) 森林組合制度の概要 (13:30~15:30) (農林水産省4F会議室)	林野庁計画課海外林業協力室 課長補佐(森林吸収源推進班) 松本 康裕 林野庁経営課課長補佐(組合組織班)宮 俊輔	"
10/28	金	講義	森林保全と人間活動の共生	持続的な森林管理の基準指標 (10:30~12:00, 13:00~16:00) (林友ビル6F会議室)	東京大学農学部 教授 白石 則彦	"
10/29	土			休日		"
10/30	日			休日		"
10/31	月	講義	森林認証制度 日本の森林・林業に関する制度	ITTO プロセス (10:30~12:00) 日本の森林・林業に関する法制度 (13:00~14:30) (林友ビル6F会議室)	ITTO Mr. Johnson (財)林政総合調査研究所研究員 澤登 芳英	"
11/1	火	講義 実習	(東京→西武新宿線南大塚) 森林資源の把握	森林管理におけるGISの利用事例及びGIS実習 (13:00~17:00)	(株)朝日航洋 奥泉 敦	"
11/2	水	講義	森林保全と人間活動の共生	治山技術 (10:30~12:00, 13:00~15:30) (林友ビル6F会議室)	(株)森林テクニクス 業務課課長補佐 佐保 昇児	"
11/3	木	講義		休日		"
11/4	金	講義 交流	森林保全と人間活動の共生	持続可能な森林経営の確立(モデルフォレスト他) (13:00~17:00) 交流会 (17:15~19:00) (林友ビル6F会議室)	JOFCFA 会長 小澤 普照	"
11/5	土	移動	(東京→石垣島)			石垣
11/6	日			休日		"
11/7	月	講義 視察	森林の生態・生物多様性	沖縄の森林の概要・保護林の概要 西表島の国有林 (13:30~16:30) (場所: 石垣地方合同庁舎)	九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター所長 上席自然再生指導官 山下 義治	"
11/8	火	移動	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	マングローブ林の保全・保護 (10:00~12:00, 13:00~16:00)	九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター所長 上席自然再生指導官 山下 義治 自然再生指導官 坂梨豪俊、築川 伸一	"
11/9	水	講義 実習	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義 热帯林育種 13:00~15:00: クローン増殖技術実習	独立行政法人森林総合研究所林木育種センター 西表熱帯林育種技術園 園長 加藤 一隆	"
11/10	木	視察	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義 热帯林育種 13:00~15:00: クローン増殖技術実習	"	"
11/11	金	視察	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義 热帯林育種 13:00~15:00: クローン増殖技術実習	"	"
11/12	土		移動	(石垣島→帯広)		帯広
11/13	日			休日		"
11/14	月	討論		インテリムレポート作成指導 (10:00~12:00, 13:30~15:30)		"
11/15	火	討論	インテリムレポート	コースリーダーによるインテリムレポートに関する指導 (10:00~12:00, 13:00~16:00)	JOFCFA 参与 長繩肇	"
11/16	水	討論	インテリムレポート	コースリーダーによるインテリムレポートに関する指導 インテリムレポート発表リハーサル・討論 (10:00~12:00, 13:00~16:00)	JOFCFA 参与 長繩肇	"
11/17	木	討論	インテリムレポート	a.m. 評価会 p.m. インテリムレポート発表会	JOFCFA 参与 長繩肇 JICA	"
11/18	金	討論	インテリムレポート	インテリムレポート発表会・閉講式	JOFCFA 参与 長繩肇 JICA	"
11/19	土	その他		帰国		"

## カリキュラム（案）

単位:日

到達目標	項目	科 目	講義	実習	視察	討論	担当講師・機関	講義・視察・実習等の目的	講義・視察・実習等の内容
(1)森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す手法を理解する。	日本の森林・林業の概要	日本の森林・林業の現状と課題及び新たな展開	0.5				JOFCAL 長繩 肇	日本の森林・林業の現状と課題及び新たな展開を理解する	日本の森林・林業の現状と課題及び新たな展開
		日本の林政を担う組織と機能	0.5				JOFCAL 長繩 肇	日本の林政を担う組織と機能を理解する。	日本の林政を担う組織と機能
		森林関係の法律と森林計画制度の概要	1.0				JOFCAL 長繩 肇	森林関係の法律と森林計画制度の概要を理解する	森林関係の法律と森林計画制度の概要
		日本の造林技術	1.0				JOFCAL 長繩 肇	日本の造林技術事業について理解する	日本の造林技術の仕組みと実際
		日本の森林・林業技術普及の概要及び普及方法	0.5				JOFCAL 長繩 肇	日本の森林・林業技術普及の概要及び普及方法の概要を理解する	日本の森林・林業技術普及の概要及び普及方法の概要
		国有林の森林経営	0.5	0.5			北海道十勝東部森林管理署長 山本昭彦 治山課長 大門 一哉 業務課長 長崎秀光	国有林について理解する。本別公園(治山の森)及び足寄・松川実験林(針広混交林の伐木施業)視察を含む	国有林の概要と都市近郊公園における治山事業及び伐木施業実験などを紹介する
		苗圃・苗木づくり	0.5				林野庁経営企画課 調査官 寺川 仁	国有林全般の森林経営を理解する	日本の国有林野事業の概要
		日本の保安林制度	0.5				林野庁治山課長補佐 金谷 篤導	日本の保安林制度の概要を理解する	日本の保安林の仕組と内容
		日本の森林・林業に関する法制度	0.5				(財)林政総合調査研究所 研究員 津登 芳英	日本の森林・林業法制度の概要を理解する	森林・林業に関する法律の歴史と現状
		ITTOプロセス	0.5				ITTO Mr. Johnson	ITTOのプロセスを理解する	ITTOの事業の概要
		森林組合制度の概要	0.5				林野庁経営企画課長補佐 宮 俊輔	日本の森林組合制度について理解する	森林組合の歴史、仕組、内容
日本の森林・林業に関する制度	北海道の森林行政	北海道の森林行政	0.5				道庁水産林務部林務企画グループ 主査 廣川 幸一	北海道の森林行政を理解する	北海道の森林行政行政
		道有林の森林施業、大断面集成材を使用した厅舎の紹介	0.5				北海道十勝総合振興局森林室 森林整備課長 田村 修一	北海道の森林行政を理解する	
		帯広市の森林施業・緑化事業及び緑の環境モデル都市の概要並びに間伐、木工教室	1.0	1.0			帯広市都市建設部 みどりの課題と花の係 渡部愛	帯広市の森林・緑化への取組を理解する	帯広市の森林の概要、施業の方針及び緑の環境モデル都市の概要並びに間伐、木工教室
海外における日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力	JICAによる林業協力	1.0				JOFCAL 地球環境部第一グループ	JICAによる協力の方針と内容を理解する	JICAによる森林・林業協力の歴史、現状、方向
		海外におけるNGOの取り組み	0.5				(特定)地球緑化センター 研究員 内田邦雄	ボランティアによる海外緑化活動への取組事例を学ぶ	NPOによる海外における緑化活動への取組事例を紹介する
		諸外国の森林・林業のケーススタディー	0.5				JOFCAL 長繩 肇	諸外国における森林・林業協力の取り組みの事例を紹介する。	
森林保全と人間活動の共生	森林保全と人間活動の共生	人々と森林－日本の土地所有制度と森林	1.0				技術士 岡部廣二	日本の森林所有制度を理解する	日本の土地所有制度と森林所有制度の歴史と現状
		えりも緑化事業、地域住民との対話集会	0.5	0.5			日高南部森林管理署署長 上平清治 治山課長 竹田 桂 えりも治山事務所主任 志田 有理絵	荒廃海岸の緑化「えりも岬国有林治山事業」の歴史を理解する	えりも緑化事業の施工経過と現状視察及び地域住民との対話集会
		日本の森林管理にかかる取り組み		0.5			JOFCAL 長繩 肇	日本の森林・林業の現状を理解する	日本の森林・林業の取り組みについて討論する
		住民参加による森林管理	1.0				北海道大学 農業学部 教授 柿澤宏昭	住民参加による森林管理の意義と方法を理解する	住民参加による森林管理の意義と方法等の説明
		森林組合の活動	1.0				十勝広域森林組合 参事 村上 悅朗	森林組合による民有林經營など森林組合活動の実態を理解する。	森林組合(工場設備、作業現場を含めて)と森林所有者との関係など
		持続可能な森林経営の確立	0.5				JOFCAL 会長 小澤普照	持続可能な森林経営の理論と方法論を理解する	持続可能な森林経営の理論と方法論を講義
		持続的な森林管理の基準指標	1.0				東京大学農学部 教授 白石則彦	持続的森林管理の基準指標を理解する	各国の森林管理の基準について
		治山技術	1.0				(株)森林テクニクス 業務課長補佐 佐保昇児	日本の治山技術を理解する	日本の森林荒廃の現状を学び、各種治山技術の説明
		民有林における森林保全活動	0.5	0.5			前田一步園芸団 山林課長 西田力博	日本の民有林における財団設立による「自然を壊さない取組み」を理解する	民有林のさまざまな態様と活動(国立公園内の民有林「前田一步園の経営」)
		参加型手法	PCM手法	0.5	4.5		JOFCAL 長繩 肇 山下 昌一、武井 沙織	PCM手法を理解し、アクションプラン作成に活用する	PCM手法の説明と実習
(2)森林資源の把握手法と森林の効用を理解する。	森林資源の把握	森林情報収集	0.5	0.5			(財)日本森林林業振興会札幌支部帯広支所 松原 康時	収穫調査の実際を理解する	収穫調査手法とその実際
		森林資源把握方法(森林GISの概要－GISに必要なデータの散り方を含めて)	0.5				道立林業試験場 企画指導部 資源解析科長 菅野 正人	森林資源等把握のための森林GISの概要を理解する	森林の管理・経営上必要な森林資源等の把握のための森林GIS(GISに必要なデータの取り方を含めて)についての説明
		森林管理におけるGISの利用事例及びGIS実習	0.5	0.5			朝日航洋株式会社 プログラムマネジャー 奥泉敦	森林管理におけるGISの利用法を理解する	森林GISの基本的事項説明と森林管理における利用事例の紹介及びGIS実習
	森林造成技術	バイロットフォレスト・炭焼き	0.5	0.5			北海道森林管理局 根釘西部森林管理署長 中野亨 流域管理調整官 永宮秀成 自然再生指導官 舟橋聰	バイロットフォレストの造成について理解する	バイロットフォレストの造成の歴史、バイロットフォレストの造成に使用された機械類
		森林修復のための技術	0.5				帯広NPO28サポートセンター 理事長 千葉 雅子	森林修復のための技術を理解する。	カミネックン(組立式再生紙製植樹ポット)による植林技術について実習を含めて学ぶ
	森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施行法	0.5	0.5			東京大学北海道演習林 林長 芝野 博文	森林保全と利用の調和について理解する	林分施業法の考え方と実際
		森林施業の基礎知識	0.5	0.5			(独)森林総合研究所北海道支所 地域研究監 佐々木 尚三	森林施業の基礎知識を習得する	森林施業の基礎知識
		持続可能な天然林施業のための更新戦略	0.5				北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 森林資源部経営グループ主査 大野泰之 研究主任 滝谷美香 森林環境部環境グループ 主査 管野正人	持続可能な天然更新の基礎知識を習得する	天然更新の基礎知識
		高密路網を基盤とした天然林施業	0.5	0.5			北海道森林管理局 総務企画係長 土屋 修久 企画課長 竹中 篤久	定山渓国有林における高密路網を基盤とした森林施策を理解する	北海道森林管理局石狩森林管理署定山渓国有林における高密路網を基盤とした森林施業の理解を深めるため現地視察を行う。
		林産物の利用	0.5	0.5			北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 場長 中島俊明 企業支援部普及調整G主査 山崎亨史 利用部マテリアル研究主任 石河周平 利用部バイオマスG研究主任 折橋健 企業支援部普及調整G研究職員 遠藤展	林産物(北海道における林産物の利用状況及び材質)の利用について理解する	林産物試験場での研究状況の説明及び施設見学
		落葉広葉樹林施業研究	0.5				九州大学北海道演習林 林長 久米 篤	落葉広葉樹林施業に関する取組みを理解する	落葉広葉樹林の天然更新施業見学など
		間伐材利用促進	0.5				(株)サトウ代表取締役社長 秋元 紀幸	間伐材の利用について理解する	間伐材の有効利用について
(3)森林の生物多様性保全上の役割を理解する。	森林の生態・生物多様性	木質バイオマスエネルギー利用		0.5			足寄町経済課 参事 岩原 榮	木質バイオマス利用(ペレット)に関する製造、利用などの取組みを理解する	間伐材など小径木の有効利用に向けた木質ペレットの製造過程などの視察
		椎茸ほど木施業	0.5	0.5			新得町しいたけ生産組合 副組合長 関根 悅朗	椎茸栽培用木ダ木生産(ミナチキ栽培試験林)の造成・保育等技術等の概要を理解する	しいたけモデル林で実習
		育種と森林の遺伝資源	1.0				(独)森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 育種課長 山田浩雄	遺伝資源としての森林と育種について理解する	遺伝資源としての森林及び林木育種
		森林植生	0.5				(独)森林総合研究所北海道支所植物土壤系研究グループ長 曹澤州平	森林植生について理解する	森林植生についての説明
		森林動物	0.5				(独)森林総合研究所生物多様性担当チーム長 平川浩文	森林動物について理解する	森林動物の特徴、把握方法等についての説明
		沖縄の森林の概要・保護林の概要・西表島の国有林・マングローブ林の保全・保護	1.0	1.0			九州森林管理局西表森林環境保全ふれあいセンター 所長上席自然再生指導官 山下義治、自然再生指導官 坂梨豪俊、築川伸一	日本の森林の多様性(亜熱帯林)及びマングローブ林の保全・保護について理解する	亜熱帯保護林の管理等
		熱帯林育種	1.0	2.0			(独)森林総合研究所林木育種センター西表熱帯育種技術園 園長 加藤一隆	日本での熱帯林育種への取組を理解する	熱帯育種技術園での育種活動
森林の生物多様性保全の種々の状況	森林の生物多様性保全の種々の状況	地球温暖化防止での森林の役割	0.5				林野庁海外林業協力室 課長補佐 松本 康裕	地球温暖化防止上の森林の役割について理解する	地球温暖化防止上の森林の役割についての説明
		森林と海洋	1.0				四日市大学 教授 松永勝彦	海、水産資源と森林の関係について理解する	海、水産資源と森林の関係についての説明
		北海道の自然環境科学的研究	0.5				北海道環境科学研究センター 自然環境部 研究主幹 宇野裕之	野生動物の個体群管理と森林環境の保全について理解する	野生動物の個体群管理と森林環境の保全、特にエゾシカの個体群管理を事例として紹介する。
		湿地における野生生物保護		0.5			(株)猛禽類医学研究所代表 斎藤慶輔	湿原における野生生物の保護管理の実際を理解する	環境省飼育湿原野生生物保護センターを訪問し、湿原における絶滅危険種の保護・増殖等に関する研究活動
		市民と自然とのふれあい		0.5			野幌森林公園事務所 自然ふれあい交流館副館長 松井 則影 普及啓発員 扇谷 真知子	北道の原始林の面影を残した大都市近郊の平地林の保全保護と利用の調和を視察する。	北海道野幌森林公園(自然ふれあい交流館)を訪問する。
		コースオリエンテーション	0.5				JOFCALコースリーダー 長繩肇	研修コース概要説明、研修員に求められることなどを把握する	研修コース概要等に関してコースリーダーからの説明
		学校訪問		0.5	0.5		OBIC	学校訪問で国際交流を図る	国際交流の推進
		インセッションレポート発表会		0.5			JOFCALコースリーダー長繩肇	研修員各員の森林・林業分野の現状及び担当する業務内容、問題点を研修員及び関係者が互いに理解	研修員が自国で抱える問題点の把握、研修員の学びたい内容の確認
その他	その他	研修前半のレビュー及び後半のオリエンテーション		0.5			JOFCALコースリーダー長繩肇	研修の整理を行う	研修前半の振り返りと後半の研修内容の説明
		インセッションレポート作成検討・準備		2.0	2.5		JOFCALコースリーダー長繩肇	PCM手法を活用してアクションプランを作成する	アクションプランの作成
		インセッションレポート発表会		0.5			JOFCALコースリーダー長繩肇	アクションプランを通して研修成果を理解する	アクションプランの

## 年度別受入実績表

1. 応募／受入 人数

	平成22年度	平成23年度	累計
応募数	13名	17名	30名
受入数	12名	14名	26名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	平成22年度	平成23年度	累計
アルメニア	●	●	2名
ブルキナファソ		○○○	3名
中華人民共和国	●	○	2名
エチオピア		○○	2名
ガーナ		○○	2名
インド	○		1名
ケニア	○○	○○	4名
モザンビーク	●		1名
フィリピン	○●	○○	4名
スリランカ	○○	●	3名
バヌアツ	○		1名
ベトナム	○		1名
計	9ヶ国 12名	8ヶ国 14名	12ヶ国 26名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター  
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2  
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250  
ホームページ : [www.jica.go.jp/obihiro/](http://www.jica.go.jp/obihiro/)  
メール : [jicaobic@jica.go.jp](mailto:jicaobic@jica.go.jp)